

みやた歯科通信

vol.8



特集：患者さんの素朴なギモンにお答えします②

「^{かん}冠(銀歯など)って・・・どういうもの？」

虫歯や根の治療をして、歯の表に出ている部分(かむ部分)がなくなってしまう方には、「冠(かん)」というものをかぶせて歯の形を修復します。いわゆる“銀歯”などがそれです。今回はその「冠」について素朴なギモンを紹介します。



冠をかぶせるのはどうして？

(神経の治療をした後とか、何度か型を取って冠ができるけど・・・
どういうしくみ?)



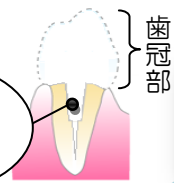
まず神経の治療は、神経の通っている管に細い針のような器具を上から出し入れして神経を取る治療です。そのため、管が上から良く見えるように、歯冠部と呼ばれる【歯全体のうち、表に出ている部分※右図参照】を削って大きく開けます。なので、歯冠部はがらんどうの状態になってしまいます。(治療中はお帰りのときに毎回粘土のようなもので埋めているので、見た目にはわかりにくいかもしれません)

次に、神経の治療が終わった後、空になった管には薬を詰めて、がらんどうの部分を金属や硬いプラスチックのようなもので封鎖して補強します(“土台をつくる”または“心棒を立てる”と先生がお話するところです)。

そして土台が立ったら、神経の無くなった歯は虫歯に対する抵抗性が弱くなってしまいますので、歯冠部全体を覆って(冠をかぶせて)虫歯から防衛するのです。

歯冠部を大きく開けて、神経の治療をします

神経が通っていた管

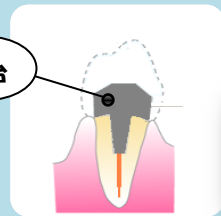


実際の写真



神経の入っていた管には薬をしき詰めて、その上に土台(心棒)を立てます

土台



実際の写真



冠をかぶせてできあがり！

冠



ウラにつづきます



冠をかぶせたら二度と虫歯にはならないのですか？



残念ながらそんなことはありません。かぶせた冠と中の歯のわずかな隙間から虫歯の細菌が侵入して、また虫歯になってしまうこともあります(二次的な虫歯)。困ったことに、この歯には神経を取る治療をしたためもう神経がないので、虫歯になっても”痛い”とか”しみる”と感ずることができず、気が付



かないうちに残っている部分全体が侵されてしまうこともしばしば。見た目は冠があるので「歯」として存在していても、その中身はぼろぼろだったりするのです。「さし歯が取れたので歯医者に来たら、取れた原因は中身が虫歯だったから」という例は非常に多いです。ひどい場合は抜歯せざるを得ないことも…。自分の歯、知らないうちに失うのはもったいないです。



また虫歯になるのをどう防げばよいですか？



ポイントは二つです。

まず一つ目は、日常の丁寧な歯みがきや、歯科医院でのプロフェッショナルクリーニングで歯石や歯垢の除去をまめに行い、冠の周りを常にきれいにしておくことで かなり 予防ができます。その時に歯科衛生士さんやドクターにチェックしてもらい、ひどくならないうちにやり直す場合もあります。



二つ目は冠の材料です。お口の中は毎日、猛烈な台風のような状態で食べ物や飲み物、細菌、ウイルスが暴れまわっています。さらに温度変化も激しく、時にはアツアツのからあげを食べながら、ビールを飲んだりもするでしょう。お口の中はそんな過酷な環境なので、冠の材料によっては錆びついてしまいます。錆びた部分は歯をくさらせ新たな虫歯の原因にもなります。お口の中でも最も錆びづらく安定しているのは「金」です。宮田歯科医院では、金の上に歯と同じ色をした陶材を含んだ材料で作る「ハイブリッド冠」や、陶材そのものを盛った「メタルボンド冠」を扱っています。金なので、サビの黒い色が歯肉に付きにくいなどの特長もあります。



冠はどのくらい持つものですか？



メンテナンスがしっかりできているかにもよりますが、銀を中心とした保険の材料はどうしても錆びてきます。毎年一回はチェックしてもらって、もし錆が進行しているようでしたら早めに交換することをお勧めします。金を使った冠はメンテナンスをしっかりとすれば簡単に悪くはなりません。宮田

歯科の患者さんで10年、20年と使ってもどこも悪くならない患者さんもたくさんいらっしゃいます。

定期的にメンテナンスを受けてクリーニングして、ご自分での歯磨きの腕もばっちりみがいて、冠も中身の歯も守っていきましょう！！

